

とぎのまど

# 時の窓

TOKI NO MADO

No.216

2020/2/1



2019年11月以降、各地で労働学校等が開催されています。本号では、九州地連労働学校と中部地連ロースクール・青年部長会議を紹介します。

## 九州地連労働学校

今回九州地連では、次世代の支部を担う組合員を対象とした労働学校を開催し、交渉について学習しました。

### ●2時間目(模擬職場会)

10人程の班に分かれ、模擬職場会を開催しました。参加者の職場実態を報告し、改善策について議論しました。その中で、①勤務経験を考慮しない人員配置(採用間もない新採がいる係で、新採以外の係員が全員異動する等)が目立つ、②超勤上限規制で超勤をつけにくくなり、早朝のサービス残業が増えた等の報告がありました。

### ●3時間目(要求書を作ってみよう)

模擬職場会で出された職場実態を基に、独自要求書を作りました。参加者の多くが、自分達が伝えたいことを分かりやすく要求文言にすることの難しさを感じていました。

### ●4時間目(交渉にチャレンジ)

当局役の先輩組合員を相手に、模擬交渉に挑戦しました。参加者は、回答漏れ、後退する回答などの問題点を見極め、工夫しながら良い回答を引き出していました。

### ●5時間目(講義)

青年協の米島議長を講師に、講義が行われました。充実した交渉には、より多くの組合員から寄せられた職場実態を把握することが大切とお話がありました。



参加者からは、交渉の進め方の勉強になった、ふだんから職場の問題を意識してみようと思った、他の職場の実態が分かってよかった、などの感想が寄せられました。

今回の学習を通して、一人ひとりの問題意識と、交渉に参加する役員が追及の背景となる職場実態をきちんとつかむことの重要性を学びました。次世代を担ってほしいと言われると、ちょっと重荷に感じてしまうかもしれませんが、一人ひとりが、みんなで職場を良くしていこうと思うことが、組合活動を次世代に繋げる鍵になりそうです。

青年協常任委員(九州地区担当) 小田 春香

## 中部地連ロースクール&青年部長会議

さて、私が担当している中部地区では、12月14日、15日に中部地連主催のロースクール&青年部長会議を開催しましたので、内容について、特に印象に残ったものを報告させていただきます！

### ●ロースクールについて

組合がなくなったらというお題で、各班(5名程度)に分かれて意見交換を行いました。

みなさん組合がない職場を想像してみてください。例えば、現場と当局の橋渡しがなくなるため、職場で何か起こっても幹部職員まで伝わらず改善しないということが想像できます。具体的には、サービス残業やパワハラなどが見過ごされ、職場環境が悪化してしまうことも・・・この分散会を通じて組合の重要性について改めて認識するとともに、しっかり情報発信をしていかないといけないと思いました。

### ●青年部長会議について

各支部報告や分散会など意見交換を多く行いましたが、その中でも愛知支部青年部が試験的にLINE(オープンチャット)による機関紙の配布を行っているとの報告がありました。



これは、各行事の迅速な案内やアンケートなど、青年部の負担軽減や迅速な情報共有ができる点があるため、青年協も考えていかなければならないと思いました。

さらには、情報発信の工夫例として、YouTubeなどの動画サイトなどで情報発信してみたらどうかという意見など、どのようにして組合の意義を伝えることができるか活発な意見交換を行うことができました。

紹介したもの以外にも、昇格の仕組みなどの講義もあり、職場で役に立つ知識も学べる貴重な機会かと思えます。みなさんも機会があれば参加してみるのも面白いかもしれません^^

青年協事務局長(中部地区担当) 岡野 健太